

全大教新聞

2016年 6月10日
第324号

【発行所】
全国大学高専教職員組合
(略称・全大教)



[PDF版 (全面カラー)]
http://zendaijyo.or.jp/?page_id=107

[電話] 03-3844-1671

[HP] <http://zendaijyo.or.jp/>

[所在地] 〒110-0015
東京都台東区東上野
6-1-7 MSKビル7階

* 毎月1回10日発行
組合員の購読料は
組合費に含まれて
います (一部30円)

今月の紙面

- 2 高エネ研の未払賃金・退職手当請求訴訟の控訴審判決、控訴審も不当判決
- 2 第28回教研集会は宇都宮大学・開催決定
- 2 「全大教時報第40巻 第2号」お知らせ
- 2 「軍学共同」反対シンポジウム参加報告
- 3 論壇「大学院生の研究生活実態」全院協
- 3 専門部等の活動報告「青年部」

- 4 部長 高木夏樹(都城高専) 単組からのレポート
- 4 室蘭工業大学 「組合知る会」の開催で4人が加入
- 4 宇部高専 「教育現場にふさわしい職場づくり」わたしも！

看護師等の夜勤改善、大幅増員等を求める

5・19 医療3単産署名提出国会行動、34万を超える署名を提出

全大教・日本医労連・自治労連の医療3単産共闘会議は、共同で取り組んできた国会請願署名を提出し、5月19日に行いました。

国会請願署名は、**1** 看護師などの夜勤労働時間の規制で、労働環境を改善すること、**2** 医師・看護師・介護職員などを大幅に増やすこと、**3** 国民の自己負担を減らすこと

を求めるものです。今年度の取り組みで、全大教では全国から2,381筆が寄せられ、医療3単産全体で



「5.19医療3単産署名提出国会行動」では医療従事者らによって「白衣のアピール行動」(衆議院第2議員会館前)を行いました(2016年5月19日)

は34万1,352筆が集まりました。同じ内容の3年間合計では118万9,801筆にも達しました。

11時から開かれた国会内の意思統一集会で、日本医労連の中野千香子委員長は、同日10時から行った厚生労働省への要請行動について報告し、3単産で共同して取り組んだからこそ、事務次官(二川一男氏)が対応し「みなさんが厳しい中で働いているというところについて、問題意識を共有して

いる」と発言したこと、また、これまで「診療報酬に、看護師の働きの改善の項目を入れさせた」、「地方議会において意見書が多数採択されている」、「請願署名の紹介議員が1000人を超えて集まっている」、など大きな成果を挙げたと述べました。

12時からは国会議員会館前で、参加者の看護師などが白衣に着替え、市民、国会議員に対してアピールをしました(上・写真)。

その後、参加者全員で650人全ての国会議員の事務所をまわり、要請書を手渡しして要請を行いました。当日の参加者は、全大教から8人、全体で248人でした。

5月12日には、看護師労働実態調査の結果について記者会見(報道機関約10社が出席)

医療3単産共闘会議は、5月12日に共同で記者会見を開きました。この記者会見は、次の2点を発表するために開催したものです。

1 5月19日の要請・署名提出行動の事前発表

2 全大教が2015年に実施した看護師労働実態調査(アンケート)の中間報告

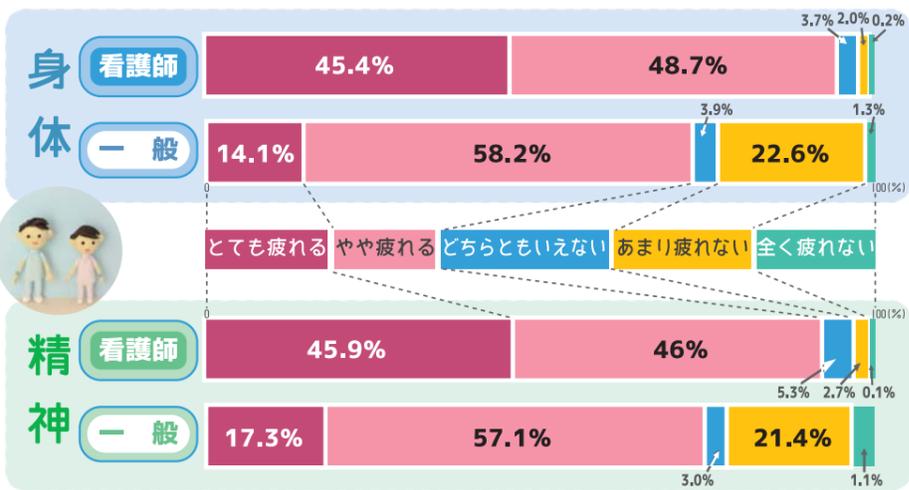
約10社の報道機関、労働問題専門ネットニュース、医療問題専門雑誌等の記者が集まりました。

記者会見で明らかにした結果については、ネットニュースの弁護士ドットコム、医療関係の速報ニュースであるメディアアクトスが報道しました。

(書記長 長山泰彦)

あなたは普段の仕事でどの程度疲れますか？(Q.21&22)

(国立大学病院看護師労働実態調査 2015年10月実施)



★身体的にも精神的にも「とても疲れる」が一般労働者の3倍!!

「国立大学病院看護師労働実態調査」充分な看護があまり出来ていない

全大教病院協議会では、国立大学に働く看護師を対象に、概ね5年毎に調査を行ってきました。前回2009年調査以降、厚労省の5局長・6局長通知や日本看護協会の「看護職の夜勤・交代制勤務に関するガイド

ライン」が示されるなど、看護労働のあり方をめぐる状況の変化も生まれました。

昨年(2015年)10月、安全・安心の医療・看護の確立と安心して働き続けられる労働環境作りを目的として6年ぶりに実施した今回の調査には、国立大学に働く看護師の約4分の1にあたる8,414人から回答を得ました。

安全・安心の看護では、看護師1人が受け持つ患者数が減少したのをはじめ、ナースセンターに誰もいないことがあるや注射準備中、他の仕事で中断させられることがあるが前回と比べ減少するなど、引き続き改善傾向が見られました。

看護労働では、夜勤時の休憩時間や夜勤人員などで改善が見られましたが、三交代・二交代とも夜勤回数の増加傾向が見られました。

健康と疲労では、「身体的・精神的疲労」で「とても疲れる」がともに45%を超え、「やや疲れる」を併せると9割を超えました(上

病院協議会では、今回の調査結果を社会に広くアピールするとともに、文科省や厚労省要請、国会要請行動などに活用することにも、病院長会議や看護部長会議等への申し入れ、各単組での取り組みなどに活用し、看護職員の増員・労働条件改善を求めて行くこととしています。なお、調査結果のリーフレットは全大教HPよりダウンロードできます。※短縮URL <http://goo.gl/wEhGV0> (書記次長 石川洋基)